

## マスクとの関わり方を考える

校長 相川 保 敏

3年ぶりの保護者参観による運動会を5月22日に開催いたしました。雨天順延にも関わらず、多数のご参観をいただきありがとうございます。また、不手際によりご迷惑をおかけいたしましたことを改めてお詫びいたします。



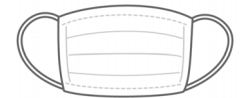
今回の運動会は、コロナの感染者数は下げ止まりの傾向が続き、まだまだ予断を許さない状況でしたので、午前と午後の2部制に分け、各家庭

2名までの参観と限らせていただきました。青空の下、プログラム通り進められましたが、コロナ感染症対策とともに暑さへの対策も必要となりました。子どもたちは出番以外は校舎の陰で待機し、水分を取り身体を休めるようにしました。また、他者との距離が保てる「徒競走」や「踊り・ダンス」では、マスクを取るようにいたしました。久しぶりに、マスク越しではない子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ、とても嬉しく感じました。体調を崩す児童もほとんどなく、無事に運動会を終えることができました。学年ごとの観覧スペースの入れ替えもうまく行われ、さすがは相山小学校だと感心いたしました。

さて、5月20日に後藤厚生労働大臣が専門家の考え方を踏まえ、屋外では2メートル以上の距離を確保できない場合でも、会話をほとんど行わなければ、マスクの着用の必要はないという明確な見解を公表しました。こうした見解がマスコミを通して広がっていますが、私自身は依然として屋外で一人で歩く際もマスクを着用しており、マスクを外すことはできていません。2年以上に亘る生活習慣を変えることはそう簡単ではないと実感しています。皆様方はいかがでしょうか。

今後は、学校生活の中でもマスクを外す場面が増えてくることが予想されます。しかし、学校では2年以上に亘ってマスクを着用するように指導し実践されていますので、大人以上にマスクを外すことに抵抗を感じる児童もいるのではないかと想像できます。実際に運動会でも、マスクを外しましょうと声をかけても、マスクを着けたまま演技や徒競走をする児童も見られました。暑さ指数が高く、熱中症が心配される場面ではマスクを外すように強要しますが、それ以外の場面では子どもたちの気持ちに寄り添って指導していきます。したがって、マスク着用の必要がない場面でもマスクをし続ける児童が出てくると考えられます。こうした考え方は、5月24日付で届きました文部科学省の事務連絡の中にも、「熱中症対策を講じた上で、様々な理由からマスク着用を希望する児童生徒等に対しても適切な配慮が必要」と記されています。どうしても脱マスクにうまく移行できるのかを考えていく必要があります。まずは、お子様がマスクを外すことをどのように思っているのか、ご家庭の話題にしていたら幸いです。

さて、6月の生活指導目標はルールについて考えようです。ルールは義務ですので、守らないと注意をされたり罰せられたりします。海外ではマスク着用



を義務化した国が多く見られ、義務化が解かれると当然のように人々はマスクを外します。一方で我が国は義務化されなくてもマスクをほとんどの人が着用し、外してもよいと言われてもなかなか外せないのはどうしてなのでしょう。ルールにすべきこととそうでないことを今一度考えていく必要があるように思います。